

質疑欄 二件

(一一) 星座名 Sculptor は彫刻家にて候や、私今日迄彫刻師室の意味に覺え居り候(大庭)

【答】 星座名 Sculptor は東京天文臺の譯語會では「彫刻室」と記されて居ります。天界第四號に「彫刻家」であつたのは彫刻室の誤でせうと思ひます。手近の天文書を見た中、Goe 氏著 Astronomical Glossary, 1893には Sculptor=(the sculptor's workshop)

Caelum=(the sculptor's tool)

を明らかに説明してありました(KK)

(一二) 月に就て詳細なる参考書、邦書又は洋書(YH)

【答】 詳細と云つてもどれ位の程度を御希望が分り兼ねますが、普通屢引き出されるものを上げます

1. 一戸直藏氏「月」
2. T. G. Elger : The Moon.
3. E. Neison : The Moon. 1876
4. J. Nesmyth and J. Carpenter. The Moon. 1916

5. G. P. Serviss : The Moon. 1907
6. Fauth : The Moon
7. P. Puiseux : La terre et L. lune. 1908
8. J. Franz : Der Mond (Aus Natur und Geisteswelt Nr.90) 1906
9. S. Gaupher : Vergleichende Mond- und Erdkunde. 1911.
10. W. H. Pickering : The Moon. 1904
11. Atlas phot. graphique de la Lune (Observatoire de Paris) 1896-1910
12. J. N. Krieger : Mond-Atlas. 1912.
13. Map of the Moon. Gall and Ing-riss, London.

先づ (一) は邦文書唯一の者で簡單な月面圖

や美しい月の寫眞などあり、内容は (5) と似た所があります。天界第一號八頁参照、間もなく三版が出るやうです。(2) は月面圖が最も詳しく掲げてあります價は參圓位でした。が今は古くて賣つて居ないかも知れません。その圖を拔萃して Ball : Popular Guide(天界第一號一二頁) には四百個程の月の山の名を載せた圖があります。(3) はクラッシカルな者ですが長所はあります。(4) は四十年以

上も前のを最近又安價に出版した者です、參圓位。(5) は(一)で述べた通り。(6) は Fauth の英譯した者で通俗書としてはよろしい、四圓位。(7) はあまりおすゝめすべき者ではありません。(8) は有名なフラジツ氏の著で小冊子乍ら學術的ですが、其中にドイツから又來るでせう、價壹圓位。(9) は文獻に詳しい長所あり、參圓位。(10) は月面の各部の寫眞があります、しかし大部分はハーバード大學天文臺年報三十二、五十一兩卷の再録から私は考へます、價貳拾五圓位。

それでさういふ書物を解説しましたが(二)は巴里天文臺のクーデ式屈折望遠鏡で撮影した大寫眞で十二冊あり百七八拾圓位でせう。但一、二兩冊だけは絶版。(2)は故クリーゲル氏の月の圖で上巻は説明、下巻は圖、價參拾圓以上。(3)として掲げたのは素人には詳しい位の程度の圖で(壹圓位)、大體 B. J. 's Popular Guide(前述) & Welde's Celestial Objects for Common Telescopes 新版にある月の圖と同じ程度です。(K)